

地域コミュニティが生み出す 「もてなしの気持ち」

金沢(石川県金沢市)

ナビゲーター
金沢市観光協会 事務局次長
瀧田 誠一
Seiichi Takida



「まいどさん」は、金沢弁で「こんにちは」という意味に近い言葉。金沢観光ボランティアガイドの会「まいどさん」が設立されてから10年以上経ち、メンバーは200人を越える

街を愛する市民ボランティアが大活躍

かつて加賀百万石の城下町として発展した北陸最大の都市・金沢市は、武家文化が残した歴史的財産を活かしながら、新しい都市の魅力づくりに積極的に取り組んでいる。

「行政は中心市街地の景観を守るために条例をつくり、施設を設けたりはしていますが、それを活かす具体的な活動は、地元業界や市民自らの手にゆだねられています」と今回のナビゲーターである瀧田誠一さん(金沢市観光協会事務局次長)は説明する。

金沢市で有名なのは、市民ボランティア「まいどさん」による観光案内で、現在その登録者数は二〇〇名を超えるという。

「観光ボランティアには、市のボランティア大学の観光コースを卒業した方しかありません。それでも、



金沢の象徴とも言える犀川には多くの野鳥も住み、また市民が気軽に川面まで降りられるように整備されている



「ひがし茶屋街」には、伝統工芸である金箔張りの技術を活かした金箔蔵もある（写真は「箔座ひかり蔵」）



景観が積極的に保護されている「ひがし茶屋街」



JR「金沢」駅前には、新幹線の開通を狙って多数のホテルが進出するなど、どんどん整備が進められている



「ひがし茶屋街」に隣接した「(株)金銀箔芸さくだ」では、金箔の作業風景を公開している



市の北東部に位置する卯辰山の中腹からは、黒瓦の家屋と浅野川が流れる美しい光景を観ることができる（手前が「ひがし茶

「にし茶屋街」にある国の指定文化財でもある「西検番事務所」前に立つ今回のナビゲーターの瀧田誠一次長



市民の台所であり、観光名所にもなっている「近江町市場」は、冬の名産品であるカニなどが店頭に並べられ、いつも大勢の人で賑わっている

金沢市観光協会

【連絡先】

〒920-0032 金沢市広岡町口1

TEL 076(232)5555

FAX 076(232)1170

URL <http://www.kanazawa-kankoukyoukai.gr.jp/>

自分たちの街を愛しているためでしょう。卒業生はどんどん増えていきますし、さらに知識を増すために、自分たちで勉強会なども開いています」

こうした意欲的な市民参加の背景としては、この地に根付いている独特の文化性も挙げられる。小学校区ごとに公民館があり、その公民館の建設から維持管理・運営に至るまでを市民が率先して行っていることに代表されるように、そこには密接で活動的な「地域コミュニティ」の存在があるからだ。自分たちの住んでいる地域を愛しているからこそ、その土地を訪れる人を歓迎するおもてなしの心が生まれてくる。

「金沢という街の魅力をきちんと知り、訪れた方々に伝えるという、素直なもてなしの気持ち」が大切なでしょう。観光都市づくりにおける基盤がしっかりしていることが金沢に多くの人を呼び寄せているのだと思います」と瀧田さん。

その都市づくりは、決して古いものの保存一辺倒ではない。金沢港からJR金沢駅を経て市街地に至る地域では、新しい都市の魅力づくりのための面的な開発が展開されている。ひとつの都市がもつ、歴史的な軸、空間的な軸を大切にしながら進める都市づくりが、『金沢』という都市のイメージを高め、ブランド力を生み出しているといえそうだ。

最後に瀧田さんはこう語る。「数年後に新幹線が開通すると、東京と二時間半で結ばれることになり。それに伴う、人口流出などの『ストローク現象』も懸念されますが、逆に、その利便性を十分に活かせるような都市づくりが今後の課題ですね」。

(文責・CEL編集部)

CEL